

第7回小千谷リビングラボ「at！おぢや」（ライブ配信）アンケート結果（一部公表）

●新潟工科大学生のプレゼンテーションについて

プロジェクト全体

- ・実際にこれから使っていく、支えていく若者の視点で、小千谷の良さを活かした活動を形にして発表していたのが良かった。
- ・それぞれのグループ発表になるほど！！と思った。

A：おぢや本づくりプロジェクト

- ・実際に参加したい。
- ・面白そうだった。紙媒体で製本するだけでなく、パソコンなどで自作の携帯小説を自由に読んでもらえる環境もあれば尚いいと思う。ただ本の制作者と読み手がセッションする場は実現のハードルが高そうなので、現実的には感想を読み手に伝える連絡ノートや投函ポストを設置した方が、匿名を守りつつ、率直な両者のやりとりが実現できるのではないかと思った。
- ・本作りをしたことがあるので楽しそう。
- ・本をつくりたいという知人にいるので興味がある。

B：BBQ、ビアガーデン

- ・図書館を楽しみにしている人との活動アイデアを練る時間にしたい。建築が始まるまで残り時間で、という視点が良かった。
- ・ぜひ若い人たちと交流したい。工事前というのが最高。

C：小千谷を彩る～街並みから小千谷の特産品を知る～

- ・縮を街中に、ぜひ！
- ・街並み整備の観点からも話題性がある面白く感じた。実施にあたっての課題を挙げたらきりが無いが前向きに考えて良いと感じた。
- ・このアイデアが実現すると本町の雰囲気が変わっていいかもと感じた。観光資源、人寄せになる可能性が大いにある。
- ・小千谷縮をまちに羽ばたかせる発表が良かった。その景色をぜひ見てみたい。
- ・面白いと思う。ただ経費等の出所が心配である。
- ・家庭に眠っているものの利用も考えられる。

D：まちにアンカーを広げる

- ・アンカーの考えを広めるためにも良いアイデアだと思う。
- ・DIYができる、DIYを教えてもらえる場所ができるのは画期的である。大工をやめた人から道具を提供してもらった提案だったが、それに加えてやめた人からアドバイザーになってもらっては

うか。大工仕事が得意な人を募集してもよいと思う。特に男性シルバー世代は、先生になって活躍する場があると生きがいになる。低額でもいいので報酬があれば責任を持ってやってもらえるのではないかな。

- ・何か作れるのは楽しそう。

●トークセッションの感想について

- ・平田さんの哲学をさらに知ることができて面白かった。景色に集まる人との交流の場。ここにしかない景色を共有して小千谷を愛する人を増やして欲しい。
- ・どんどん変わってきた設計の意味がわかり興味深かった。(at!おぢやでは) 色々なグループから色々な意見が出て、それが可能な限り反映されてきたことがよくわかった。
- ・どこにもない施設になる、過去に例を見ない設計の変更、という言葉が印象的で期待が高まる。
- ・今後の at!おぢやにも繋がることだが、高齢・障害福祉分野の事業所も巻き込むといいと思う。どんな人も利用できる施設になってほしい。
- ・わかりやすい話し方で、最後まで面白く聞かせてもらった。フロートの考え方にイマイチついていけなかったが、今日のセッションを聞いて楽しみにしたいと思うようになった。
- ・(at!おぢやは) 第6回までは行け行けで来たが、オンライン開催は一息就き、今までを振り返る意味でも意義が有り、設計事務所側の意思や素顔をまじまじと見られ、設計者側の意向を再確認出来てよかった。
- ・話を聞いてすごいなあと思った。

●「at!おぢや」について

- ・他者と出会う場である。
- ・若い人の前向きな意見にいつも感動している。
- ・ネットから参加する方法はないものか。
- ・色々な人と話ができ世間が広がった気がする。これからもできるだけ参加したいと思う。
- ・土日休みがないため今後も直接関わる機会は少ないと思うが、自分の意見を述べる手段としてこうしたフォーマットを利用したいと思う。
- ・名前(=小千谷リビングラボの愛称)が決まったことでますます活発になったように思う。自分の思いを気にせず発表できる場はとても勉強になる。今後も参加したい。
- ・これからも参加したいと思う。

●その他何か伝えたいこと

- ・図書館職員の方の話も本音トークが良かった。新しいカタチに挑戦していく市役所職員の方以上に、市民も盛り上がっていきたいと思った。「知るを支える」という言葉。ぜひもっと多くの市民の方にこのやりとりを知ってもらいたい。ワクワクする時間だった。
- ・色々な要素、色々な活用法が期待できる施設になりそうでとても楽しみである。さらに色々な活かし方をみんなで考えていければいいと思う。チャレンジショップ誘致など、施設運営費の軽減のための検討も考えていけたらと思う。
- ・いつも開催が土曜日・日曜日であり、興味関心があっても参加することが出来ない人のためにこのようにオンラインでやっていただけると非常にありがたい。毎回オンラインで会場のライブ配信などもやってもらいたい。
- ・トークセッションで色々な人が関わるというような発言もあったが、土日開催を常にされているということは土日に時間がある人との関係性しか構築しないようにも見える。一市民としてこの曜日のこの時間帯だけ集まることのできる人たちが市民全体の声として反映されることに少し違和感を感じる。
今までの流れをわかりやすく、見やすくしたり、それについて当日参加できなかった人でも意見が言えるような仕組みづくりがあっても良い。
- ・食スペースに民間事業者は入るならば決定に至る理由など分かるようにしてもらいたい。
- ・毎回 YouTube 配信をしてもらいたい。
- ・核となる図書館については、今後色々な話し合いがされるか。よく図書館を利用している立場として、新しい図書館にはとても興味がある。今日のセッションでも感じたが、現場の図書館職員の方たちは、本当に色々な工夫やアイデアを重ね、私たちは気持ちよく楽しんで利用させていただいている。これからもたくさん利用して「図書館応援団」の気持ちで、新しい施設、とりわけ図書館について関心を持っていきたい。
- ・新しく作られる図書館が子どもたちにとって家や学校以外の第三の居場所になることを願っている。大人は入れない子どもたちだけで利用できる勉強スペースや、可能であればソーシャルワーカーの常駐。また、私が小学生の頃は飲食できるスペースが設けられていた。食べ物や飲み物の自販機を設置してそれも再開してもらえるといい。以前は小千谷郵便局 2 階で絵の展示会なども行われていたが、アート作品を実際に見る機会も新たな施設に増やして欲しい。施設のイベント情報は SNS で積極的に発信してほしい。
- ・建設業関連の方々より、消融雪・雪室・雪庇処理・再生エネルギー利用の具体的工法やどの様に利用されるかなどを聴きたい、心配であるとの意見も有り、市内の建築設計組合や雪利雪団体等の方とのヒアリングが必要と思う。冬季間の色々な問題を設計の段階で確認しておいた方が良いと思う。設計者側がどの位の考えを持っているのか一般市民が判っていないのでは不安である。

※赤書部分への回答（株式会社平田晃久建築設計事務所）

消融雪、雪室、雪庇処理など雪対策に関しては、新潟県内で豪雪地帯の設計経験豊富な建築設計事務所と協力関係を結び、雪国視点でのチェックを受け、機能面、安全面に配慮した計画、設計にま

とめられるよう進めております。また、利雪団体へのヒアリングを行っております。

①消融雪について

駐車場や舗装部分は消雪パイプ及び融雪装置(ロードヒーティング)の設置を検討しております。軒下においても吹き込み対策として融雪装置を設置予定です。

②雪室について

融雪水を熱媒体として本計画建物の冷房空調におけるピークカット時の利用を目的とし、雪のみの貯蔵を考えております。

③雪庇処理について

雪庇防止フェンス等の設置や、融雪装置(屋根端部より2mの範囲)の設置により、特に道路や建物出入口に面する部分には雪庇が発生しにくい計画としております。

④再生エネルギー利用の具体的工法、利用目的について

地中熱利用は熱源として、本計画建物の冷暖房空調への利用を目的としております。熱応答試験の結果より、空調への適正な使用量を算出し組み込んでおります。太陽光発電は、建物内の電力に利用致します。太陽光パネルは、勾配をつけ融雪装置付きとし、背が高い架台は設置せず、積雪による破損がしにくいように検討しております。